

| | | | | | | | |
|---|---|-----|-----|--------------------------------|---------|-------|----|
| 授業科目 | 栄養教育学特論 Educational Nutrition | | | 担当教員 | 松尾 嘉代子 | | |
| 展開方法 | 講義 | 単位数 | 2単位 | 開講年次・時期 | 1・2年／前期 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業のねらい | | | | | | | |
| <p>ヒトは「食」行動を通じて必要な栄養素を摂取し、生命の維持や発育・成長、身体活動などを営んでいる。栄養素の摂取不足や不適切な摂取は健康状態に好ましくない影響を及ぼし、生活習慣病等の大きな原因となる。これは、適切な栄養素摂取ができる食行動からなる健康的な食習慣の確立が人間の健全な成長と健康保持に重要であることを示している。栄養教育の大きな目的は、人々が生涯を通じて健康を保持・増進し、身体的な健康に限らず生活の質（Quality of Life）を向上させることに寄与できる健全な食行動・食習慣を確立することである。本講義では、対象者それぞれのライフスタイルやライフステージに応じた健全な食行動・食習慣を身につけさせるために必要な行動科学、カウンセリング及び教育方法の基礎的知識と実践可能な技術の修得を目指す。</p> | | | | | | | |
| | 学生の授業における到達目標 | | | 評価手段・方法 | 評価比率 | | |
| 関心・意欲 ・態度 | 自主的・積極的に学修に取り組むことができる。 | | | 講義・討論への取り組み 姿勢 | 10% | | |
| 思考・判断 | 対象個人・集団から健康問題や食生活・食習慣の改善点を抽出し、生化学的に考察することができる。 | | | レポート | 20% | | |
| 技能・表現 | 対象個人・集団に応じた栄養教育計画書及び学習指導案の作成ができる。 計画書及び指導案をもとに、栄養教育を実施できる。 | | | 栄養教育計画書及び学 習指導案 模擬講義・授業等 | 50% | | |
| 知識・理解 | 行動科学の基礎的理論を理解し、エビデンスに基づいた栄養教育計画を作成できる。 | | | レポート | 20% | | |
| 出席 | | | | | | 受験要件 | |
| 合計 | | | | | | 100% | |
| 評価基準および評価手段・方法の補足説明 | | | | | | | |
| レポート、事前学修の取り組み、理解度、模擬講義・授業や討論内容等を総合的に評価する（基本的に上記の評価比率に基づく）。 | | | | | | | |
| 授業の概要 | | | | | | | |
| <p>栄養教育の目的・目標を理解した上で、行動科学の基礎的理論とカウンセリングに基づいた栄養教育を学修する。また、我が国の健康問題や栄養状態の現状を把握した上で、対象となる個人・家族、または集団に応じた栄養教育アセスメントとプログラムの作成・実施・評価を行えるよう、演習や模擬授業・講義を取り入れる。さらに、各ライフステージ・ライフスタイルに応じた栄養教育の意義とその実践法を学修する。随時、諸外国の情報や研究報告を取り入れる。</p> | | | | | | | |
| 教科書・参考書 | | | | | | | |
| <p>教科書：必要に応じて、資料を配布する。 参考書：「マスター栄養教育論（逸見幾代、佐藤香苗編著、建帛社）」 その他は適宜紹介する。</p> | | | | | | | |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | | | | | | | |
| <p>基礎理論を踏まえたうえで、研究課題に基づき関連文献を検索し、先行研究から学ぶことを心がけてほしい。また、考察力、プレゼンテーション能力、討議能力、栄養教育的介入による研究スキルを身につけてほしい。</p> | | | | | | | |

| 回 | テ ー マ | 授 業 の 内 容 | 予 習 ・ 復 習 |
|----|-------------------------|----------------------------------|--|
| 1 | 栄養教育学概論 | 栄養教育の目的・目標、栄養教育の対象と機会 | 栄養教育の目的や意義について予習しておく。栄養教育の現状と課題について復習する。 |
| 2 | 栄養教育の手法（1） | 行動科学の理論やモデルと栄養教育 栄養教育における組織作り | 行動科学の基礎的理論を予習しておく。栄養教育の現状と課題について復習する。 |
| 3 | 栄養教育の手法（2） | 栄養カウンセリング | カウンセリング手法を予習しておく。カウンセリング手法の栄養教育への応用について復習する。 |
| 4 | 栄養教育マネジメント（1） | 栄養教育のためのアセスメント | 栄養アセスメントを予習しておく。教育プログラム計画の作成に向けて栄養アセスメントを行う。 |
| 5 | 栄養教育マネジメント（2） | 栄養教育プログラムの作成 | 教育プログラム作成に必要な資料・教材の準備。教育プログラム実施に向けて復習する。 |
| 6 | 栄養教育マネジメント（3） | 栄養教育プログラムの実施 | 教育プログラム作成に必要な資料・教材の準備。実施した教育プログラムの自己評価を行う。 |
| 7 | 栄養教育マネジメント（4） | 栄養教育プログラムの評価 | プログラム全体の再評価を行う。 |
| 8 | ライフステージ・ライフスタイル別栄養教育（1） | 妊娠・授乳期の栄養教育 | 妊娠・授乳期の健康・栄養問題の現状を予習しておく。 |
| 9 | ライフステージ・ライフスタイル別栄養教育（2） | 乳幼児期の栄養教育 | 乳幼児期の健康・栄養問題の現状を予習しておく。 |
| 10 | ライフステージ・ライフスタイル別栄養教育（3） | 成人期の栄養教育 | 成人期の健康・栄養問題の現状を予習しておく。 |
| 11 | ライフステージ・ライフスタイル別栄養教育（4） | 高齢者および障がい者の栄養教育 | 高齢者・障がい者の健康・栄養問題の現状を予習しておく。各ライフステージ・ライフスタイルに応じた教育プログラムを計画する。 |
| 12 | 諸外国における栄養教育 | 先進国・発展途上国での栄養教育 | 先進国・発展途上国の健康・栄養問題の現状を予習しておく。我が国との比較を通して復習する。 |
| 13 | 栄養教育を用いた研究手法（1） | 栄養教育研究と生命倫理 | 生命倫理問題の現状を予習しておく。栄養教育研究における生命倫理について復習する。 |
| 14 | 栄養教育を用いた研究手法（2） | 研究計画・実施及び評価 | 現在進めている研究の現状と課題を抽出しておく。課題を解決する対応策について復習する。 |
| 15 | 総括 | 本講義のまとめ・総合討議 | |

注) 講義内容は都合により変更することがある。